



1899
3



坂田金平右平記卷之三

目録

- 一 武將凱陣并叙任公平事
- 一 公平屋鋪終并紀生活系事
- 一 武將所成并申樂具事
- 一 老執化呂女刺人頭事
- 一 長尾正武吳國書事

坂田全平を平記考之二

武將凱陣付叙任公平事

左様小は涼の清勢既よ青登が原におもく。かろふ武
 徳公平とお後一は涼小は涼。公まが出生は常陸にて
 の側身細よ云上。必以が首級を突指小入なり。武お
 所悦彦一。公時常に継子なる事と先君を懐きたまひ。
 夜く清涼ある事。父よ水し。せむらおよ。あつむと。けり
 勇士と求事。商家の武運偏備念に叶ふ。未だ家此
 方こして。今度の側感念する。小細。父よ。時。平。領。お
 遠く。能。於。所。也。万。事。へ。武。徳。と。念。を。合。志。和。と。願。へ。し。

ひよといそぎ凱旋有べと。前記は素庵とち。月出く
 海海まきこる。帝おふるまはぬ。天皇をるる。系
 あり傳養とて。山佐城七の勢。兵小公平。お生一
 養。すまきし。帝敵感。はう守。公平と階下。ふれ。
 敵小胡。危殆。愛。勇。ま。ま。上。と。夜。の。強。敵。天。下
 乃。強。敵。う。ま。き。秘。小。神。妙。れ。獨。威。斜。を。は。て。云。事
 を。名。庫。敵。は。は。び。は。は。清。順。あ。う。う。ま。の。面。目。世。れ。事
 と。素。臣。和。合。の。收。ま。り。各。退。か。る。ま。さ。く。ま。は。大。悪
 女。首。と。六。条。川。原。に。集。ま。る。と。檢。北。遠。使。の。強。め。を
 後。ま。さ。く。南。て。於。義。云。四。天。王。と。う。わ。在。京。の。法。大。名

を。法。鏡。は。會。合。の。う。今。夜。の。軍。立。大。軍。出。途。の。貴。か。く。
 志。と。ぬ。に。血。ぬ。は。く。物。語。と。亡。と。事。偏。は。公。平。が。切。り。う。
 各。一。敵。と。ま。て。勝。軍。は。智。と。秘。と。へ。と。投。の。強。者。の
 せ。く。子。代。を。い。ま。や。松。竹。の。君。が。熱。へ。腐。龜。乃。金。丸。と
 も。ゆ。の。あ。る。ま。山。海。の。珠。味。と。あ。り。團。々。れ。名。酒。様。小。気
 と。あ。り。ま。れ。や。梓。弓。殺。盡。れ。兵。兵。保。り。る。中。に。も。公。事
 を。親。重。代。の。大。海。お。ひ。へ。誓。ま。で。ま。い。ら。ぬ。大。堂。り
 傳。り。交。竹。小。う。る。武。將。信。け。つ。い。て。時。が。屋。浦。へ。云。用。れ。る。小
 若。と。う。り。い。つ。ま。に。て。能。く。ん。ど。る。屋。浦。と。云。平。に。さ。う
 せん。事。い。ん。と。宣。げ。ん。り。り。ま。は。被。し。と。云。合。ら。る。あ。ま。

江門小文治を以て中なるよ系村を此色にそとの
る此能屋浦の古くより中清なる人三教と高世じ
ゆりぬく或い令とさる色又いまの方とさる守り此能
屋浦と名付。丁指の居とさるまうに喜此能なる人
く。榮菊瓶の外不と名。瓦碑を形を破月おとさく
周流てま屋敷の色とさるまうに人の色とぬりはと
すまぬづく強なる。公平色とまい江門及そ色にぬり
はら此形ぞや。王城をく直指の志と今まで色とま
夫王の色をさるれ。まを屋敷を中清甲斐くく
此わらうべ令とぬく。色の小城まふく。色をりんと

は申之と中色に色を入るゆくとさる。云出く事
を二夜愛ぞぬと。若る色に中の色とく下さるる。と
平大は信ひ幸の目おぼせん。新世神の事る色にそ
くと用とくと。追有者。清人宿人森や。色を
とさる。とゆくと。事と。知て。公事。ま。教の。理と。納。有。り
云平此能屋浦の事
既よ主教も。ゆき色に。云平。の。色。と。を。村。系。屋。敷。を。飲
中。と。今。日。後。徒。を。一。と。用。意。を。し。馬。ふ。亦。系。村。を
乃。屋。浦。ぬ。色。なる。皮。よ。さ。る。色。に。か。ふ。より。あ。人。の。短。なる。よ
と。刀。入。て。方。田。所。よ。あ。さ。る。大。屋。浦。の。形。新。世。神。を。色。なる。事。



源の
よのち
かまの
かまの
ゆえ

法大
川あま



公平
市
のび

大平

三

ぬ風情。公平よりきふ立入る果をふ云々の。今秋は
等一人も殊と表よおて体息と一。我は是を彼
何れは対面せんおらうそれはさるる。極は大火と燃し。
友とするよ。口中柄。肴の維子の八割とこのごくに候
座より。膏の如く。一。等。使。数。星。針。探。干。して。万。難
おらう。我も海とす。す。わ。ら。う。を。病。く。面。白。や。傷。か。ら
ぬ。村。一。ご。難。ま。さ。さ。う。吹。お。ら。を。心。風。破。意。は。現。を
入。と。心。だ。地。清。ん。と。と。又。わ。ら。ふ。何。ま。ら。る。云。來
く。ん。ま。背。刃。さ。る。程。公。人。の。法。師。一。眼。み。て。口。揚。耳。の
根。ま。て。製。良。足。の。毛。一。針。と。極。ら。る。と。く。伊。の。際。よ

搦せし。唐。公平。大。意。と。酒。と。終。維。子。肉。と。破。産。家。く
と。遠。く。一。極。と。空。洞。は。る。小。僧。や。もの。さ。も。酒。を。飲。と
し。と。言。と。い。と。終。以。ぬ。酒。を。の。せ。維。子。の。肉。と。是。公。人
と。仰。と。さ。で。お。い。を。て。ひ。ら。う。と。吟。う。る。云。平。遠。意。を
と。捕。ま。せん。と。お。い。を。さ。へ。此。お。お。向。ひ。坂。田。云。平。と。ら。ふ。志。成
字。及。ら。う。何。は。い。極。美。の。さ。る。さ。へ。公。人。と。命。惜。く。終。ふ
な。云。せ。よ。無。後。悔。さ。も。首。一。扱。を。し。云。々。さ。へ。は。師。又。終。ら。る。
云。平。可。あ。ひ。我。よ。な。云。す。若。力。争。う。て。い。ち。う。と。例。よ
あ。ら。丸。本。程。と。一。致。一。括。二。中。と。擯。と。さ。は。い。と。云。々。さ。へ
法。師。所。由。に。て。云。々。と。取。ら。れ。も。堂。を。勤。の。ば。あ。ら。と。あ。て。は

をうらり同敷とあらぬ牛おびてしききた。公平世たうごき
けりあてい壺とぬ駈突て小僧のくちめうん外は遠の
駈たうらと柱と筆友解くまは法師高坪みさうと精の
首筋とまうらうけし権清やん共うらる。公平大よお矢秘を
心重ぬ化物お助垂て何程のゆは出さん沸おおれは
おひよらんを収る。聖は秋も又東うんお西に縁のほま
を調くしき。乃程十六の女刀と提て云まが前よまら
四秋は神おは張色お影う前はゆみ。公平提の依はゆ
中でも湯まかたは方かまへ。扱くるまごも業に叶やさ
ごひよ命と物下らるべくいほお庭去とていおねいけ刀の

先直け屋敷は居る。人の秘あしそいぢあぐうよ入
いりおは張の言まをふをよははそて刀と提ゆらる。公平刀と提て
扱放しんるふ他へ非在ち。非在恰合今味焼ぬお提を
云をよ及まご。公平受あて出まらうく。ごま一まも油
らごお殺ぐーと久九清系の上へ命の依へ先そ寂寥お
へは出て疎しき影もあふ伽とて成へと夜は福くと言
しゆらる。肩と提し白器ふぬまはは物あ方る。力お提て
扱提らる。公平於年とて出ら提し。ま提しと提しと
中へまらる。まはは物と提し。勿古裡の形も本とらるとお芳
やあまに死入遊よまら

てん、これ則孫も知るぞや。教令世あも孫くは鬼と
思ふん、出たさう。二之玉も捕りて執拘し、百人の海や
頃、ゆきと武徳の口親父九条生し、其鬼は腕と截
ち、その事と申ふに、橋本流り、け平、未生、お氣の
ふに、と書て知らし、あゆ、後、あも、波、い、は、華
武徳は仕、か、を、せ、い、ま、武、お、は、辰、辰、清、く、は、平、が、お、ま
御、二、身、也、は、扇、子、と、お、せ、あ、い、実、く、徳、平、か、一、は、あ、は、は
ある、と、い、是、と、速、速、と、い、ち、の、れ、と、ま、い、ひ、も、い、徳、は、平
と、ゆ、て、清、原、と、ま、て、あ、う、ろ、う、ま、ら、ま、い、人の、心、と、清、原、は
足、立、が、東、に、あ、ね、た、花、も、る、足、と、い、く、と、二、夜、又、人、は、面、と

何の事ありと。さまたるや。梓弓。い、は、き、く、武、徳、の、義
い、う、ゆ、き、と、遊、に、は、前、と、中、入、り、お、お、米、も、あ、ま、あ、り、
馬、上、乃、勢、鬼、神、乃、切、近、身、振、出、た、ら、う、可、憐、方、き、面、は、正、
身、に、産、生、つ、又、未、の、代、ふ、ら、う、の、事、と、一、夜、不、寝、と、感、が、あ、り、
武、徳、も、一、か、無、く、な、ま、あ、い、い、ふ、ま、屋、辰、は、女、と、一、世、は、徳、公、
平、ゆ、り、来、し、初、つ、ち、も、延、疾、力、重、つ、中、業、と、事、と、一、の、世、に、
ゆ、ゆ、い、お、花、車、花、殿、の、事、は、今、日、初、て、一、夜、は、い、ま、な、り、
静、や、も、身、重、つ、あ、い、く、ま、更、じ、相、を、と、は、い、ん、狂、言、は、あ、い、
首、に、と、中、て、来、り、な、り、鬼、た、く、首、の、あ、め、て、い、ま、は、辰、
ま、い、ね、の、何、も、始、と、あ、つ、て、平、と、一、夜、あ、ま、く、は、辰、と、

駿の大徳と取出一首ふりけて一夜は安や西とを尋て
居らむける。一層乃大名立うら安やくとくより。公事款
多く信田屋よりくんとんと。七八十人おれらる大徳と
りく。卒夜立承屋方入る色へ遣す。大名屋。是を
ゆんら目をとらぬ大徳よりく。是拍子、能く
寛ふ承屋人入る。皮云平の首。古今せ双程を中。
大樹は横垣よりく。口被は還御成ふり

二階堂を氏友中は御發

治曆二年もゆ和て。馬立ゆり。玉の代も承屋。是を
信田の大名皆悉く。口被ゆり。己の國に下る。是中

云平は任國の口被ゆり。入給の松。信田の藩代。侍りて
三列。下名一色。色を流ゆ。信田に及び。信田中。氏百姓。是
中。字方。友と行。友。或。附の事。成。二階堂。書。陳。今
長尾。書。附。友。か。家。杜。子。信。入。給。の。か。友。り。信。真。も
中。お。幸。ゆ。り。云。平。堂。乃。ん。を。信。を。信。世。も。程。め。て
軍。し。り。事。終。る。ゆ。袋。入。御。お。小。納。り。ゆ。信。公。杜。内。と
據。く。と。一。入。お。信。一。く。ゆ。色。を。信。地。に。ゆ。信。世。も。大
な。ら。ゆ。信。信。あ。る。も。あ。は。信。世。も。表。て。ゆ。信。成。信。真。ん
二。重。時。長。尾。書。附。中。ら。入。給。ゆ。と。信。ゆ。信。家。杜。書。附。り
信。順。して。四。夷。八。蠻。枝。を。か。り。ゆ。内。信。信。海。乃。信。も。信。ゆ。之。

心はを去るなり。是より無算の富を八幡の宮あり。
 及、希代の御千代に、中に入、其一人の志も、強弱貴
 族の隔り、坊主にも、事、奇、妙、な、事、な、り、と、い、ふ、に、
 正しく、し、け、ん、公、平、守、て、お、笑、曲、と、い、ふ、に、
 携て、賞、め、の、り、し、と、い、ふ、に、
 柘、原、の、首、も、扱、て、憎、ん、推、進、も、さ、ゆ、て、
 中、一、多、天、内、の、懸、る、と、い、ふ、に、
 愛、不、測、の、も、扱、て、あ、れ、と、い、ふ、に、
 と、府、中、と、い、ふ、に、
 と、く、世、上、の、儀、と、い、ふ、に、

今、と、い、ふ、に、
 好、系、の、扱、乃、も、い、ふ、に、
 と、中、の、扱、乃、も、い、ふ、に、
 能、く、い、ふ、に、
 依、り、て、い、ふ、に、
 も、い、ふ、に、
 地、乃、小、細、波、小、松、文、て、い、ふ、に、
 中、の、扱、乃、も、い、ふ、に、
 乃、る、小、細、波、上、篇、の、乳、母、一、人、誘、く、仲、家、小、賽、り、



おぼろげに誓言此神と蓋明是らうん。まき氏をぞ執り
に女成べし只一おみり刀乃招ふ事とかあ。輝くもや
申して願ふとけ。後悔をを叶せし。輝く相見玉の
神おと下より福乳母とを対わやけ。輝く乳人すく
とま氏が信まよてきて。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
よの下の世もあ。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
乃妹は日よ教そ。名は輝く奥の。まき氏も輝く。輝く母の世も
よて此世の世もたかく好む。父母もは輝く。父母もは輝く

娘がく入る。早結をまきとて。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
い事ある。まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
と仲立をのち。まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
おのまき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
乃知りて。まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
七世の形を。まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
ゆりて。此神の。まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く
まき氏も輝く。輝く母の世もたかく好む。父母もは輝く

後不妊の心ひとけ。一妻をも重氏より奪はば不妊の心是
りふ疾と有りぬ。身れ初末とてしほりてはむとぬ
血の心のかり重丸本格積むとも重故れわく
まはば懐く。神の若くしひまらる人乃心の奥の
志れぬの乱るらん乳母はうすまらうとせ。婚若にわ
とひひきこいももたがうもよま。まに教とてちつ。醫
は傷る血の海さうすんふしほりぬ。彼嫁居るさき
重士人の市へも是よいを播き。婚若作る神は若
れ智の若きう。赤う。何よ重のさい殿と父母
も重さうせん。あくぬてともされて経の縁つゆく

乃乃長尾正氏

長尾正氏妻物語

助て乳母の女房長尾結は神にけ申かくとひあきだ。
吉尾史ぬに脱て脱て対面さうとて。往後の義式は縁ひ
子代を統一宝珠の親もぐらわ物日げ。貴久一ことと
はゆ。や。赤飯金月よい時といはん目も。教は祝納さう
重氏の内よりそんくそんく又年長妻結を導く原さひを
男子一人お生ある。父母の種を具く。親の肉ふるや。重小
如多。後よさる。中を盛後梅長。命お家中切通。教負
とて血氣重のめもた。重さ。婚はう。外嫁分と用て振く

結細りに似しう。重氏新しめりては、
 情とあざんとを碑けきた。重氏の武勇に怒りて、
 を送る。本時乳人皮稚子と抱き、
 山平を斬りぬき、
 情とあざんと切て入重氏に三た強と先よをむり、
 て落し伸昂よと首斬る。中切り、
 切付ると下と通して、
 て死する。指をこへ、
 首中ふち落し、
 滴入中流し、
 入重氏に三た強と先よをむり、
 て落し伸昂よと首斬る。中切り、
 切付ると下と通して、
 て死する。指をこへ、
 首中ふち落し、
 滴入中流し、

抱付て伏す。吾能史ぬい中と守る。世不可也。
 かき、
 頼り、
 同も、
 情とあざんと切て入重氏に三た強と先よをむり、
 て落し伸昂よと首斬る。中切り、
 切付ると下と通して、
 て死する。指をこへ、
 首中ふち落し、
 滴入中流し、

を授き候へばと相成りて人を一睡の長きを成り候
社政は恍惚として人心を文よきうける。御守りて候
しるは老像を授きて而して室を授き候。相成りて候
師乃海は懸つらむじくして少くも。相成りて候
一足り之別は立地候。平人の服は角と立地候に
もかたは座敷志安候。相成りて候。長尾
守長押給。よりく是程の之を若く成敗も成切なり。
大小と扱ての房拂はは。是は付座士と成り候。相成り
座の殿乃未世は討まじく。雷万人は擧て擧候。

と折し。初は諒と拒て賢人を殺害と。楚國より相成り
賢人を送らる。乃其一の証候。室を。是は九尾金毛乃
古瓶あり。人定は候。相成りて候。相成りて候。
は入て王宮を。相成りて候。相成りて候。相成りて候。
ふまうせ。相成りて候。相成りて候。相成りて候。相成りて候。
とる事候。古瓶の。相成りて候。相成りて候。相成りて候。
ら。又室中に。相成りて候。相成りて候。相成りて候。相成りて候。
の言。相成りて候。相成りて候。相成りて候。相成りて候。
相成りて候。相成りて候。相成りて候。相成りて候。相成りて候。
相成りて候。相成りて候。相成りて候。相成りて候。相成りて候。

客を枕して聞さうさふ。王假の位はあつて人さるの
業禮當らばと申事。心よけむいふ事なる事
一ふ常に玉掛合殿の座の上后妃とたふをけしひ
未変するぬよ宿の至業乃飯出有しそは及むを起し
く色へ又十子の業む忽と破く中持掃帚に及む事
何の例も久し。重氏日來好色此を事と皮靴初
てさう樹とたけぬんを演る。云平怒してきてそ
寄次をてと候。若指らさう事とさうたてま此人
を迷さん。未け向て又百を子もるさけ此梳と梳ぬ
んと既し。山ととも申よ。都よりと子あ有る。根も江州

伊吹山よ愛地信でを世の人と存す。教と知と。牛馬六畜
を極致。若と希好は祖。祖して言夫凡下此歸き。妻あり
と多き。新味。是は信て。武初命と敵り。彼地。榮白
み前之。急。承。若。と。と。人。息。つ。で。や。る。云。平。中。を。そ
大は信。を。子。の。世。と。都。澄。して。殆。臣。居。せ。し。り。不。能。登。の
出。見。せ。り。急。で。上。洛。と。と。馬。引。お。せ。武。具。下。し。し。頭。上
く。と。海。あ。む。け。り。

坂回金平を平記書之三終

